

サンプルコードにおける太陽光発電モジュールの直並切替問題

Ver. 2017042320

Takashi Okamoto (takashi@faculty.chiba-u.jp)

1 はじめに

本サンプルコードでは、文献 [1] で定式化された太陽光発電モジュールの直並切替問題とは少し異なる記号と定式化を用いている。本稿では、実装に用いた定式化について説明する。

2 定式化

モジュール n の電流の大きさを $x_n^i \in \mathbb{R}, n = 1, \dots, N$ とし、層（並列接続されたモジュール群） k の電圧の大きさを $x_k^v \in \mathbb{R}, k = 1, \dots, K$ とする。

モジュール n とモジュール $n+1$ 間の接続方法を $y_n \in \{0, 1\}, n = 1, \dots, N-1$ で表し、 $y_n = 0$ で並列接続、 $y_n = 1$ で直列接続とする。 \mathbf{y} は、1 を区切りとして、0 の連続で 1 つの層を表す。たとえば、 $\mathbf{y} = (0, 0, 0, 0, 1, 0, 0, 1, 0, \dots)$ は、モジュール 1 からモジュール 5 ($n = 1, \dots, 5$) が第 1 層 ($k = 1$) を構成しており、モジュール 6 とモジュール 7 ($n = 6, 7$) が第 2 層 ($k = 2$) を構成していることを表す。このとき、モジュール n と層番号 k を結びつける関数としては

$$k(n, \mathbf{y}) = \begin{cases} 1 & (n = 1) \\ 1 + \sum_{m=1}^{n-1} y_m & (n > 1) \end{cases} \quad (1)$$

が考えられる。また、 $k(n)$ の逆関数に相当する K 個のモジュール番号集合

$$\mathcal{N}_l(\mathbf{y}) = \{n \mid k(n, \mathbf{y}) = l, n = 1, \dots, N\}, l = 1, \dots, K \quad (2)$$

を定義する。

上述の決定変数を用いて、太陽光発電モジュールの直並切替問題は

$$\text{maximize}_{\mathbf{x}^i, \mathbf{x}^v, \mathbf{y}} \sum_{n=1}^N x_n^i x_{k(n, \mathbf{y})}^v \quad (3a)$$

$$\text{subject to } 0 \leq x_n^i \leq I^{MM}, n = 1, \dots, N \quad (3b)$$

$$0 \leq x_k^v \leq V^{MM}, k = 1, \dots, K \quad (3c)$$

$$f(x_n^i, x_{k(n, \mathbf{y})}^v) = 0, n = 1, \dots, N \quad (3d)$$

$$\sum_{n=1}^{N-1} y_n + 1 = K \quad (3e)$$

$$V^{Sm} \leq \sum_{k=1}^K x_k^v \leq V^{SM} \quad (3f)$$

$$I_k(\mathbf{x}^i, \mathbf{y}) = I_1(\mathbf{x}^i, \mathbf{y}), k = 2, \dots, K \quad (3g)$$

$$0 \leq I_k(\mathbf{x}^i, \mathbf{y}) \leq I^{MM}, k = 1, \dots, K \quad (3h)$$

$$0 \leq \sum_{n \in \mathcal{N}_k(\mathbf{y})} I_n^{SC} \leq I^{MM}, k = 1, \dots, K \quad (3i)$$

$$\text{where } k(n, \mathbf{y}) = \begin{cases} 1 & (n = 1) \\ 1 + \sum_{m=1}^{n-1} y_m & (n > 1) \end{cases} \quad (3j)$$

$$\mathcal{N}_l(\mathbf{y}) = \{n \mid l(n, \mathbf{y}) = k, n = 1, \dots, N\}, l = 1, \dots, K \quad (3k)$$

$$f(x_n^i, x_k^v) = \begin{cases} 0 & (x_n^i \geq I_n^{SC} \text{ and } x_k^v = 0) \\ 0 & (x_k^v \geq V_n^{OC} \text{ and } x_n^i = 0) \\ \left(I_n^{SC} - \frac{V_n^{OC} - R_n^S I_n^{SC}}{R_n^{SH}} \right) \frac{1 - \exp\{C_n(x_k^v + R_n^S x_n^i - V_n^{OC})\}}{1 - \exp\{C_n(R_n^S I_n^{SC} - V_n^{OC})\}} & \\ - \frac{x_k^v + R_n^S x_n^i - V_n^{OC}}{R_n^{SH}} - x_n^i & \text{(otherwise)} \end{cases} \quad (3l)$$

$$I_k(x^i, \mathbf{y}) = \sum_{n \in N_k(\mathbf{y})} x_n^i \quad (3m)$$

と定式化される。この定式化での問題のサイズは、連続決定変数の数 $N_x = N + K$ 、離散決定変数の数 $N_y = N - 1$ 、目的関数の数 $P = 1$ 、不等式制約条件数 $M = 2N + 6K + 2$ 、等式制約条件数 $Q = N + K$ となり、文献 [1] の値を代入すると、 $N_x = 63$ 、 $N_y = 53$ 、 $P = 1$ 、 $M = 164$ 、 $Q = 63$ となる。

3 時系列データの読み込み

本サンプルコードでは、文献 [2] にしたがって、時刻 t でのモジュール n の短絡電流 $I_n^{SC}(t)$ 、定数 $C_n(t)$ 、開放電圧 $V_n^{OC}(t)$ をモジュール平均温度 $T(t)$ とモジュール n の日射量 $S_n^{RAD}(t)$ から

$$C_n(t) = \frac{118.6958}{T}, \quad n = 1, \dots, N \quad (4a)$$

$$I_n^{SC}(t) = I^{SCU} S_n^{RAD}(t), \quad n = 1, \dots, N \quad (4b)$$

$$V_n^{OC}(t) = 46.6 - 0.121(T(t) - 298), \quad n = 1, \dots, N \quad (4c)$$

と算出する。本サンプルコードには、1 分刻み 8 日分の時系列データが含まれており、11,520 パターンの実験を行うことができる。

参考文献

- [1] T. Hayashi: "The series-parallel switching of photovoltaic modules, and mixed integer programming", Proc. of The 1st IEEE international workshop on sensing, actuation, and motion control (SAMCON2015), IS1-3 (2015-3)
- [2] 林孝則: 「時系列データによる太陽光発電モジュール直並切替最適化の有効性評価」, 平成 29 年 電気学会全国大会 講演論文集, 3-S10-4 (2017-3)